

第3章

ゾーンの検討

【基本計画からの変更点】

- ◇ ゾーニング名称・展示テーマ・内容 一部見直し修正
- ◇ 既存区域改修工事完了時想定イラスト

(1) ゾーンの区画と名称



基本計画で設定した整備対象範囲とゾーンの名称を、以下のように変更する。

《変更点》

- ワンダーパークゾーン → 整備対象範囲の変更し 基本計画の中のそうぞうの池ゾーンの呼称とする。
- 日本の自然ゾーン → 動物ゾーンに変更し、一部対象範囲を変更
- 水辺の動物ゾーン → 水辺ゾーンに変更
- 草原の動物ゾーン → 草原ゾーンに変更
- ゾーニングの見直しによるユニバーサル動線の変更

【凡例】

- ユニバーサル動線
- - - ショートカット動線
- ☆ エレベーター
- 管理動線
- パビリオン

(2) ゾーン・エリア名称と展示テーマゾーン表記の見直し

基本計画で策定されたゾーン名称等を計画の変更に伴い一部見直す。また、世界観の創出の下となるゾーン名、エリア名、展示テーマは計画上の指針としてのみ使用し、VIサイン等で来園者に示す呼称はこれに準じない。

※網掛け部分が基本計画からの変更点

区域	ゾーン	エリア	展示テーマ	内容	VI・サイン表記
既存区域	動物ゾーン 『身近な自然と文化のつながり』	琉球弧	『琉球タイムスリップ』	家畜小屋や畑が備わった沖縄の民家やその暮らしを通して、動物の恩恵や自然に寄り添い、いのちに感謝してきた文化を知る。	琉球弧フィールド
		ライオンフィールド	『王者との出会い』	本物のライオンと出会った時の感動を増幅する演出を展開し、五感を刺激する体験的な手法により直感的に知る。	ライオンフィールド
		里山の迷宮	『里山の動物ごっこ』	沖縄にはない「里山」という人と自然の共生の姿を紹介。そこに棲む動物達は、かつては共に暮らしてきた動物であり、下草刈等手入れされた里山ではいろいろな動物に出会うことができた。その世界に迷い込んで、動物の性質を探ってみる。	アニマルフィールド
		小さな生き物の世界	『小さな生き物の感覚体験』	小さくて気づかないこともある身近な生き物達。彼らの目線の世界を通して、その存在や生物多様性の底辺を支える小さくても大切なのちを感じる。	
		ハンターの潜む秘境	『捕食動物の息づかい』	秘境の奥深くで偶然に発見された神秘的な遺跡を探検、その地を守るかのように潜む動物たち。捕食動物の生態を体感する。	
		ゾウの舞台	『人と動物の絆』	人と野生動物が深い絆でつながっている世界を象徴するゾウのトレーニングの実演空間。ゾウと人のコミュニケーションを体感するとともに、ゾウ使いとゾウが長い歴史の中で積み重ねてきた関係や絆に触れる。	

区域	ゾーン	エリア	展示テーマ	内容	VI・サイン表記
既存区域	ワンダーパークゾーン 『わたしたちの未来へつなぐ』	そうぞうの池	『つながりの想像』	水面に浮かぶ船に乗りながら、豊かな緑と水辺の環境に浸り、生き物とのふれあいを通して、園内で体験し感じた生命の輝き、生命の繁栄と共存の歴史、自然との共生について考える機会をもつ。	ワンダーフィールド
		ふるさと園	『沖縄の風水思想と暮らし』	ふるさと園や周辺のビオトープ施設を活用し、沖縄の環境共生について体験を通して学習する。	
		ワンダーミュージアム	『科学を通じた未来の創造』	ワンダーミュージアムを活用し、これからの環境共生にも視野を広げる様々なワークショップや体験を通して、楽しく科学に親しむ。	
拡張区域	ジャングルゾーン 『多様性と進化のつながり』	バードケージ	『森のにぎやかな住人達』	全世界の半数以上の生物が息をするといわれるジャングル。これを可能にした森の上下方向の棲み分け等、共存共栄のしくみを感じる。	拡張区域整備時に決定
		カモフラージュの森	『生きるための生活戦略』	多くのいのちがひしめく森では、生きていくために進化の過程で多様な戦略を身につけた。これらを知ることで自然に対する観察力や探究心を養う。	
		サルの森	『森の賢者とくらべっこ』	森で暮らしていた私たちの祖先(原猿類～類人猿)から人へと進化し、発達した能力を知ること、人間らしさとは何かを考えるきっかけをつかむ。	
	草原ゾーン 『食べる事を通じたいのちのつながり』	草食獣の群れ	『みんなでいき抜く』	栄養価の低い過酷な草地環境の中で、いき抜くための群れ社会や食物の食べ分け等を通して、食べることといきることの大切さを感じる。	
		肉食獣の多様性	『食べ物で変わる姿』	草食獣と肉食獣が食べるものの違いによって発達した体の仕組みが違ふこと、食う食われるの関係である生態系等を通して、地球上に存在するいのちは食べることで繋がっていることを知る。	
	水辺ゾーン 『歩みをともしするつながり』	生命の池	『いのちが集う水辺』	いきる上で欠かせない水。森の動物も草原の動物も水を求めて集まってくる姿、平等に水を分け合っている姿を通して、貴重な水の存在や水を介した共存関係を感じる。	

